第15回国内観光活性化フォーラム inくまもと

全国旅行業協会（ANTA）12日に開催

行こうよ熊本 元気な九州

全国旅行業協会（ANTA、会長＝二階俊博衆院議員）は12日、国内旅行の活性化と観光立国の実現を目指して「第15回国内観光活性化フォーラムinくまもと」を熊本県熊本市の熊本城ホールで開催する。ANTA会員の旅行会社や都道府県観光関係担当者、運輸機関、宿泊施設など観光関係者のほか、一般来場者も加え約2300人が参加。熊本を中心とした国内観光の情報を発信する。

前回の国内観光活性化フォーラムｉｎふくしま

大会スローガンは、本部が「行こうよ熊本 元気な九州」、地元が「火の国くまもと 来てはいよ」。国内観光の活性化のほか、ANTAの全国支部組織の連携の強化、着地型旅行（地旅）やインバウンドの推進も目的とする。共催は株式会社全旅。後援は国土交通省、経済産業省、観光庁、各都道府県、日本観光振興協会、日本旅行業協会、日本旅館協会、日本商工会議所、全国商工会連合会、ほか。

熊本城ホールのメインホール

基調講演で観光庁長官の田端浩氏が「国内観光の振興について」（仮）報告するほか、熊本県知事の蒲島郁夫氏が歓迎挨拶と熊本地震からの創造的復興について、地元出身のタレント、コロッケ氏が熊本の魅力などについて語る。

全国5600社のANTA会員が力を合わせて熊本県へ旅行者を送る「熊本県送客キャンペーン」の実施も決定する見込み。前回の「第14回国内観光活性化フォーラムinふくしま」で決定し、18年に実施された「福島県送客キャンペーン」の優秀会員に対する表彰も行われる。

熊本の観光地を巡るエクスカーションも13、14日に計9コース実施。主催は地元実行委員会。

主催者あいさつ

観光の発展が地域経済活性化に

全国旅行業協会会長
二階俊博

本日、令和の時代初めての「第15回国内観光活性化フォーラムinくまもと」を、蒲島郁夫熊本県知事をはじめとする地元熊本県の関係者の皆さまのご熱意をいただいて、熊本県熊本市において盛大に開催できますことを心からうれしく思います。

また、全国各地でご活躍の全旅協会員の皆さま、観光振興にご尽力されている多くのご来賓の皆さまにご参集いただき、心から御礼を申し上げます。

さて、ここ熊本県は、「火の国」「水の国」と呼ばれ、緑豊かな森と名水、美しい海と島々などの自然、温泉郷をはじめ、2018年に世界文化遺産に登録された「天草の﨑津集落」、日本遺産、ユネスコ無形文化遺産、世界農業遺産、世界ジオパーク等の観光資源を有し、また、観光と農林水産業との連携による「食」「くまモン」による誘客PR活動など、全国有数の魅力ある観光資源に恵まれた地であります。

16年4月の熊本地震によって観光を牽引してきた熊本城や阿蘇地域が被災し、観光業、農業などの地域経済や観光地、公共施設が甚大な被害を受けてから間もなく4年を迎えようとしております。国と地元自治体の協力の下で、現在も熊本城の復旧工事や阿蘇への道路、橋、鉄道等の交通インフラの復旧事業など、県内各地で復興が着実に進められているところであり、熊本県の観光の創造的復興が1日も早く実現されることを心よりご期待申し上げます。

2020年代を迎えた今日、私共が目指している「観光立国」の実現は、国の成長戦略の重要な柱と位置付けられ、また、地方創生の切り札として期待されております。このような中、「観光立県」を目指して魅力ある観光資源を生かして着地型、滞在型観光の推進に取り組まれている熊本県において全旅協のフォーラムを開催することは、誠に意義あることであります。観光が明るくなれば、世の中は必ず明るくなります。第15回となる本フォーラムを通じて、全国5600社の会員が一体となり、これまで培ってきた長年の経験と英知を結集して力を発揮し、観光の発展こそ地域経済の活性化につながるとの確信をもって奮起しなければならないと考えております。

さらに、観光にとって安全と安心の確保は極めて重要です。我が国は、有史以来、幾多の甚大な自然災害を受けながらも、その都度、力強く立ち直ってまいりました。今日、全国各地で古くなったインフラを整備し、災害に強い国づくりを行う国土強靭（きょうじん）化が力強く進められており、防災、減災のための取り組みを通じて、全国津々浦々に安心して出かけられる旅行、観光の環境を守ることが地域の観光の強化にとっても極めて重要であると確信しております。

本年夏には、いよいよ2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。当地熊本県は、日本の「マラソンの父」と言われる金栗四三氏の故郷でありますが、56年ぶりのオリンピック・パラリンピックを大成功させて、我が国の魅力あふれる素晴らしい観光資源を全世界に伝えて、旅行需要の喚起と観光産業の発展のために力を合わせて取り組んでまいりましょう。

結びに、本フォーラム開催に向けてご協力いただいた熊本県をはじめとする自治体、観光関係者、本日ご参集の皆さまに心から感謝を申し上げ、本フォーラムの成功を祈って私の挨拶とさせていただきます。

地元実行委員会 委員長
熊本県支部 松嶋洋支部長に聞く

熊本地震からの復興がテーマ

――熊本県で開かれるのは、2007年の第4回に続き2回目となる。今回のテーマは何か。

「第1に掲げたのは、震災からの復興だ。熊本は16年4月の熊本地震で大きなダメージを受けた。熊本観光の活性化を図りたい」

「県による観光振興は、何人来てもらうかというインがメイン。一方、中小旅行会社の仕事は、熊本の人を県外に送り出すアウトがメインだ。インの方は会員1社だけではなかなか難しいので、75社が加盟する協同組合を中心にインのお客さまを連れてくるから、アウトの取り組みもお願いしますという地元の旅行業界と県とのウイン&ウインの関係を築きたい」

「3番目のテーマは、熊本の旅の魅力を旅行業協会から発信することだ」

――熊本の旅の魅力には何がある。

「熊本は水がきれいなので、食事がおいしい。例えば、天草の焼き貝、阿蘇の赤牛、そして熊本の馬刺しなどがある」

「観光地では、一つには阿蘇をアピールしていく。メイン道路の57号線はまだつながっていないが、迂回（うかい）路が整備されているので、阿蘇をそん色なく見て回れる。熊本城は、まだ完全復旧まで何年かかるか分からない状態だが、天守閣には屋根瓦もしゃちほこも付いた。熊本のシンボルの復興過程を見てほしい」

――大会プログラムの内容は。

「会場には地場産業や観光協会などが出展するブースが設置される。今回は会員だけでなく、熊本県内の人が中心になるが、一般にも開放して、地元の産業や食、観光地などを見てもらう」

「観光庁の田端浩長官による基調講演の後、熊本県の蒲島郁夫知事に知事が掲げる『熊本地震からの創造的復興』について語っていただく。地元出身のタレント、コロッケさんの講演もある。一般の人も入場できるので、楽しみにされている方も多いのではないか」

「オープニングの時には大津太鼓と津軽三味線を、翠親会の時には山鹿灯籠を地元の方に披露していただく。熊本といっても阿蘇や菊池、天草、人吉などかなり広いので各地区のプロモーションビデオを流しながら宣伝をする。くまモンもPRに一役買ってもらう」

――目標人数は。

「会員とその関係者で1300人、一般の方も含めて2千人の参加を予定している」

――会員や関係者などへ歓迎のメッセージを。

「震災の時にいろいろとお世話になった感謝を伝え、熊本の発展している様子を見て、楽しんでいただきたい。地元一丸となって頑張っているので、どうぞ皆さんお越しください」

エクスカーション

1「山鹿・豊前街道散策と菊池一族歴史探訪の旅」山鹿豊前街道散策→メロンドーム→鞠智城・温故創生館→菊池渓谷散策→菊池神社→菊池公園・物産館

2「高森田楽の昼食と阿蘇草千里の旅」草千里ヶ浜→高森田楽→高森湧水トンネル公園→道の駅あそ望の郷

3「選べる♩玉名よかとこめぐり」A～Cから選択　A＝金栗四三生家・南関御茶屋跡、B＝蓮華院誕生寺、C＝松永日本刀剣鍛錬所→たんぽぽ→横島トマト収穫体験

4「防災とまちづくり～西原村の奇跡とお池さん　幻の門前町～」西原村→阿蘇の名物あか牛丼→お池さん（揺ヶ池）→萌の里→山田さんちの牧場

5「熊本空港ＣＣゴルフツアー～雄大な阿蘇の麓で～」熊本空港カントリークラブ

6「キリシタンの島　天草宝島散策と本渡温泉」世界遺産　三角西港→天草五橋→天草本渡→キリシタン館・殉教公園→イルカウォッチング→本渡温泉→400年の歴史を誇る海空の城　富岡城→リゾラテラス

7「阿蘇山・久木野そば道場体験と内牧温泉の旅」草千里ヶ浜→阿蘇神社参拝・門前町水基巡り→大観峰→内牧温泉→上色見熊野座神社→白川水源→久木野そば道場→道の駅あそ望の郷

8「大河ドラマ『いだてん』生家と珍しか体験」金栗四三生家→南関御茶屋跡→たんぽぽ→蓮華院誕生寺→吉永醤油店→玉名温泉→松永日本刀剣鍛錬所→小代焼窯元→きずな飯→横島トマト収穫体験

9「秘境五木村と城下町人吉温泉に泊まる歴史探訪の旅」子守唄の里　五木村→人吉海軍航空基地跡ミュージアム→人吉城跡→青井阿蘇神社→人吉温泉→城下町人吉観光

開催日　令和2年(2020年) 2月12日 水
会　場　熊本城ホール　熊本県熊本市中央区桜町3-10

主催：一般社団法人 全国旅行業協会　共催：株式会社 全旅
後援：国土交通省、経済産業省、観光庁、熊本県、46都道府県、熊本県内各市町村、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本旅行業協会、(一社)日本旅館協会、日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会